

# 第12回「親子キャッチ575」 最優秀作品と表彰式 青少年育成市民会議

「親子キャッチ575」の作品募集に、市内の小中学校、高等学校からたくさん応募をいただき、4,766点の作品が集まりました。そして、表彰式は平成27年11月15日、碧南市文化会館で行われ、最優秀作品、優秀作品の合計30点が表彰されました。

作品のテーマを、「家族・地域の絆」「命の大切さ」「人への思いやり」とし、感心したり、感動したり、うれしい気持ちになったりする作品で、親子の絆の強さを感じるもの、温かい家族の様子が浮かんでくるものがたくさんありました。



受賞者の皆さん



最優秀賞を受賞された親子

第12回親子キャッチ575最優秀作品

あさがおの  
いろがかわった  
君の将来  
楽しみだ  
母

鷲塚小一年 たなだことこ  
どんな色

いもつとは  
ぼくのうしろを  
思い出す  
母

中央小三年 山本竜希  
ついてきた

ふしぎだな  
ママの手にきると  
いつまでも  
母

中央小四年 小椋由愛  
ほっとする  
手と心

外出は  
熱中症の  
もうすでに  
母

危険あり  
中央小五年 角谷海仁  
熱中症

父と釣り  
釣れたのは  
息子だけだと  
父

中央中二年 渥美壮  
言えぬ父

親父との  
サイクリングは  
速く漕げ  
父

西端中一年 小倉悠斗  
わが息子  
根性ないな

うるさいな  
今からやろうと  
なつかしい！  
母

新川小六年 犬塚媛理  
言ってたな  
ママも昔は

炎天下  
仲間と共に  
同じ時間  
母

碧南工業高一年 森山琉  
流す汗  
宝物!!

なんでだろう  
母の応援  
結果より  
母

新川中三年 石井健斗  
涙出る  
熱くなる

碧南市青少年育成市民会議だより

# ふれあい

編集発行  
碧南市青少年育成市民会議  
碧南市源氏神明町4  
TEL (0566) 42-3511

## 2016年成人式『翼』

成人式実行委員長  
HEXPO 2年 磯貝 潤

僕たち、碧南市成人式実行委員の11人は、たくさんの方々のご協力のもと、1月10日に無事成人式を終えることができました。

成人式は「翼」というテーマのもと、“感謝”“挑戦”“責任”“協力”という新成人に伝えたい柱を掲げ、式全体を構成しました。「翼」というテーマには、新成人に向けた2つのメッセージが込めてあります。

- 翼で飛ばすために、今まで親や友達に協力してもらったことに感謝し、今後飛ばす姿が見本となり、それぞれの夢や挑戦に向かって努力してほしい。
- 1つ1つの羽が重なり、一つの「翼」になる。1つ1つの羽が私達であり、1人1人が協力すること・支え合うことによって大きな「翼」となる。みんなひとりじゃない。

このメッセージを成人式でみんなに感じてほしいと思い、自分達でみんなに届けよう、伝えようと語り・手紙・スライドショー・スケッチブックリレー・アカペラを行いました。

約1年にわたる成人式の準備の中で、実行委員11人にはそれぞれ学業・アルバイト・仕事があるため、そろっての作業や練習がなかなかできませんでした。しかし、市生涯学習課の職員の方を始め、周りの先輩・後輩など多くの方々の協力のおかげでこのような最高の成人式をやり遂げることができました。

式が終わったときには、達成感と感動で胸がいっぱ



いになり、この11人の仲間と最後までやり切れたことが最高に幸せでした。

また、多くの新成人から「感動した」という感想をいただきました。成人という節目の時に、新成人がこれまでの感謝やこれからの挑戦について考える素敵な式にできてよかったです。

成人式実行委員会の活動は一区切りを迎えましたが、この経験を活かして、来年の成人式実行委員会のサポート、HEXPOの活動、それぞれの夢に向かって頑張っていきます。

この成人式はたくさんの方々の協力があって成功させることができました。たくさん支えられ応援していただきました。

背中を押してくれた親、共に成長してきた友達、たくさんの方のおかげで飛べることを忘れずに今、自分の道へ飛び立とう。



### 行動と責任

碧南青年会議所

近藤 雅也

ある日電車に乗ることがありその時に思ったことが、乗客の多くの人がスマートフォンをずっと眺めていることです。他の乗客が座りたくても席を空けることなく目先のスマートフォンに夢中でした。「空き時間の有効利用」かもしれませんが、自分の周りが見えなくなるのは少し問題があるのではないのでしょうか。

別の日、親戚一同が我が家に集まった時に甥っ子、姪っ子が、親の言うことが聞こえなくなるまでゲームに一生懸命でした。直後にひどく叱られました。先ほどの話と似た内容ですが、子どもなら大人が注意してくれます。しかし大人になれば注意してくれる人はいません。自分で責任をとらなければいけません。何気ない行動でも周りの人たちは見えています。それが子どもであったらどのような教育になるのでしょうか。自分を変えるためにはまず身近なことから見つめ直し考え、行動しなければいけないなど、考えさせられたエピソードでした。



### 言葉遣い

碧南市父母の会連絡協議会

棚田 麻理子

ある時、子供達がケンカをしていました。その時、姉の言葉遣いが、「やめろって言うてるだろ！お前！」

それを聞いた時に、「女の子なんだから、その言い方やめたら？」と、とっさに言ってしまいました。しかし、よく考えたら、私自身が、子供達に対して怒っている時に使っている言葉だと思いました。

我が子が使っている時は、はっと思いますが、いざ、自分が使っている時は、怒りにまかせて何も思っていない。

思い返してみると、子供は周囲の大人達から言葉遣いを覚えます。赤ちゃんの時は、親や祖父母の言葉を聞いています。保育園に入園すると、普段、自分が使わない言葉を覚えて帰ってきます。まずは、自分が変わらなければ・・・と思うのですが、なかなか変わりません。

これからは、怒っている時も、ひと呼吸おいて、言葉遣いに自分自身気をつけながら、子供達に注意していこうと思います。

### 子供とスマートフォン

碧南高等学校PTA会長

縦山 建

スマートフォンの普及が子供に及ぼす影響はバーチャルな人間関係だけが肥大化し、本来土台となる現実の人間関係は希薄化し、いわば逆三角形で非常に危険な状態です。「デジタル認知症」という言葉がありますが、スマホの使い過ぎで若年性認知症に至る可能性があるといわれています。スマホさえあれば電話番号、地図を覚える必要はないし物を書くことも減り、手を動かさなくなれば脳は退化してしまいます。

この危機感を当事者意識を持つきっかけにしたいと思います。使用時間など子供の自発的なルールを作らせると良いと思います。

今、子供たちを取り巻く状況は潜在化、複雑化している中、大人の本気度が問われるのではないのでしょうか。何事も同様ですが、大人の押しつけは子供が反発するので、家庭、地域、学校で子供を見守り、特に家庭においては、大人が手本となりスマートフォンの家庭内のルールを守り行動しなければいけないと思います。

### スマートフォンの適切な利用について

～PTAによる取り組みも始まっています～

近年、スマートフォンを持つことによる問題が一般に取りざたされています。私もPTA役員になるまで、ほとんど感じていませんでしたが、子どもが6年生になり、スマートフォンから発生する問題を何度も見ました。そこで、授業参観に合わせて外部から講師を招き、パソコン・スマホの問題を6年生全体と保護者に話していただきました。保護者からは、ほとんど良い感想でしたが、希望なども含め、感想をまとめて学校側に伝えました。代表的なものを以下に紹介します。

- ・これからもやるべき ・子どもの生の声を聞きたい
  - ・親だけの現実的な話も聞きたい
  - ・実際にあったできごと話して注意を促してほしい
- あくまで、個人的な意見になりますが、噂話などがたくさん入ってきます。事実を確認することの大切さや、批判的なことを言わない大切さを子どもたちに教えていく必要があると感じています。

平成27年度西三河地区小中学校PTA指導者講習会「テーマ別情報交換資料」より

## 各地区 おやじの会の活動

おやじの会は、平成10年に棚尾地区の小学校5、6年生の父親たちが「棚小おやじの会」を組織し、活動をスタートし、その後、市内の他の地区にも広がっていきました。活動のねらいは、「父親同士の交流を図って連帯感を高めること」「子育てを母親任せにしないで、父親も家庭教育に関心をもち、子どもの理解を深め、子どもからの信頼を得ること」です。今年度も、各地区でさまざまな活動が行われました。



棚尾おやじの会



日進おやじの会



大浜おやじの会



西端おやじの会



新川おやじの会



鷺塚おやじの会

## 子どもの生活とモバイル機器

2014年7月に調査。調査人数は市内小学6年生 227人、中学3年生 167人

